世界中の誰よりもキミを愛す

なー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
世界中の誰よりもキミを愛す

【Ｎコード】
Ｎ３２８５Ａ

【作者名】
なー

【あらすじ】
世界中の誰よりもキミを愛す。自信あるよ。キミを誰よりも愛しているという自信が。彼女の様に愛されたかった。叶わぬ願いはそっと胸にしまっておこう。泣いてしまう前に。

#プロローグ#（前書き）

叶わぬ願いはそっと胸にしまっておこう。泣いてしまう前に。

#プロローグ#

キミは知らない。アタシの気持ちを。
どんだけ思ってるか、キミは知らない。
好きなんだよね。キミが。
この気持ちは、大事に、そっとアタシの胸にしまっておこう。
叶わぬ願いを、人に言うのはキライだから。

毎晩星に願う、この願いを。叶うはずないこのちっぽけな願いを。
“キミに想いを届けたい”
星に願えばどうなるの？て聞かれたら何も言えない。けど、これだけは言える。自信がある。誰よりも

キミを愛しているという自信が

#プロローグ#（後書き）

こんにちは☆突然ですがいま私は恋ｖをしています。叶わぬ片想いです。だから小説に想いをぶつけました。実話では無いです。

第1話#彼女

ただ見てる。キミを。授業中は、わざと上の空。読むところをキミに教えてもらうため。分かるんだけど、分からないフリして、答え聞いたり、何がなんでも喋りたかった。何がキッカケでもいい、皆に嫌われてもいい、キミに愛されたかった。

ダメだ。キミには彼女がいる。これ以上ないくらい可愛くて、優しくて、運動も勉強もできて、友達なのに、今更
「アンタの彼氏が好きなの」
なんて言えない。

＃＃＃＃＃＃

「麗菜、あのアニメのＣＤは？？？」

「んー。ちょっと待って。あっ哲也っナナちゃん来てるよ」

ナナちゃんとは笠原奈々葉ちゃんで、哲也、桐原哲也の彼女。そしてアタシ、今井麗菜。ナナちゃんと哲也の友達。正直いって、二人の間にずっといるのはキツイ。でも、哲也をあきらめたくない・・・。ナナちゃんみたいな完璧な人を見るとミジメになる。アタシなんて・・・・・・て思ってしまうの。
どうしてアタシじゃなくて、アノコなの？確かにアノコは完璧だし、イイコだよ？でも、完璧なんかじゃなかった。一つ欠けてる。キミへの想いなら、どれだけアノコがキミをスキと言っても、キモチだけはアタシに勝てない。

ねぇ自信持っていい？
自信あるよ。世界中の誰よりもすきだって言える。
叶わないなら、そっと胸にしまっておこう。泣いてしまうように。
傷つかぬように。

第2話#嘘だよ

キミと星を見たら泣いてしまう。
綺麗で、星は繋がれて一つになる。
ナナちゃんとキミはAという星座だとしたら、アタシは仲間外れのB。
「星を見に行こう」
って言われて・・・三人で見に行くことになった。プラネタリウムだけどね。

＊＊＊＊＊

休めばよかった。そう思ったのは今。何仲良くしちゃってんの？何イチャイチャしてんの？もっと早くくればよかったかも。ていうか、休む。

『風邪ひいた』と一文のメールをナナちゃんに送る。そして曲がり角から二人を見てた。気になって仕方ないのだ。

キミとアノコは手を繋ぐ？

キミとアノコは何を話す？

キミとアノコはｋｉｓｓをする？

メールが帰ってきた。
『そうなのっ（＜＿＞）今から家に行こうか（？＿？）』ナナちゃんからメール。顔文字使ってて、女の子らしくて、カワイイなと思

った。きっと、哲也はこんな所に惚れた。
とりあえず『来ないでいいよ。デートしてきな』家に来てお母さんが『もう出たわよ』なんて言われたらとんでもない。ばれる。

「来ないでだってーどうする？てつ～」

“てつ”は彼女限定の呼び方。

「じゃ、麗菜には悪いけど・・・行くか！」

なんか涙が出てしまった。星は見ていないよ？きっと、アタシに見せたことのない、顔で、笑顔で、ナナちゃんに話しかけたから。
アノコに話しかけたから。
なんか、足が勝手に動いて、結局アタシも星を見た。キミの近くで。

「ふぅお腹いっぱい！ちょっとトイレ行ってくる☆」

そう言って、ナナちゃんがトイレに行って、哲也が一人になった所でアタシは出ていき、哲也の腕をひっぱって、曲がり角に連れてきた。

「やめてください。人呼びますよって・・・麗菜？！風邪じゃなかったのか？」

「嘘だよ。あれは・・・二人が来てたから。辛かったから」

アタシは告白したも当然だと思っていた。“このまま時間（トキ）を止めて”願えば叶う。よく言うけど、ウソだと思った。

「ま、よく分からんけど行こうぜ。奈々葉心配してるし」

何よ。奈々葉、奈々葉って。アタシは何回キミの口からその名前を聞いたと思う？どんだけ辛かったかと思う？今、辛いって言ったよね？

「もういいっ・・・」

さっき泣いたばかりなのに、また目から雫が落ちる。ただ走ったまっすぐ、どこにも向かわずに。

第3話#たとえキミがアタシのものにならなくても

「麗菜ちゃん?!」
「麗菜!!!」

そんな声が聞こえた。でも今アタシが引き返しても、色々言われる。

なんで居んだよ

邪魔しないで

エレベーターに飛び乗る。荒くなった息を整えて、どうしようと考える。人前で泣くなんてめったにないし。

◇◆◇◆◇◆

その頃・・・・・

「麗菜ちゃんにてつは何をしたわけ?!泣いてたじゃん!」

二人は階段を上がっている。

「しっ知るわけねぇだろ。なんか二人を見るのが辛かったかとか言ってたけど」

「なんて返事したの?」

「よく分からんけど行こうぜ。って」

「バカッ」

◇◆◇◆◇◆

まだ追って来てるかな。そんなはずないよね。
「まぁいいか」
と二人は遊んでる。どこかに追って来て欲しいと言ってる自分がいる。
「見ぃつけた♪」
え？
「ったく。迷惑かけんなや」
え？
まさか、見付かった？二人は息が荒かった。アタシの為に走って来てくれたの？
「てめぇの為に走った訳じゃないからな。奈々葉が走るって言うから」
二人は何も言わない。聞かない。ただ一緒に笑ってるだけ。
神様、こんなアタシを呪うならどうぞ呪ってください。でも殺さないで。
わがままだけど、今アタシはこの幸せを、この瞬間を、この時間（トキ）を、手放したくない。
たとえキミがアタシのものにならなくても。

第4話#キミをスキでいられるならば。

「ごめんね。麗菜ちゃん・・・てつが鈍くて」

「はっ・・はぁ・・・」

何をいっているんだろうか、この人は。昨日の事何も言わないと思ってたけれど・・・。

「麗菜ちゃんさぁ、てつを好きだよね。アタシ聞いたよ？」

なんでバレてんの！なんでバレてんの！なんでバレてんの！

「どうしてって顔してるね・・・。知りたい？」

コクンとアタシは頷く。それしかできない。

「てつが辛いって言ってたって言ってた。てつは気付いてないよ。あいつ鈍くて・・・」

ま・じ・で？

なんか意外と早く気づかれたな～～。ここはうまくごまかさなければ。

「あははっ！何いってんの？よりによって友達の彼氏に恋するなんて・・・ありえないでしょ？」

あ゛ー。アタシ、女優の娘が良かった～。アタシ、演技ヘタスギ！

「ウソついてももう遅いよ～。アタシ、気付いちゃったんだもん」

ややばすぎる！このままだと・・・哲也に言われて、哲也にフラレて、気まずくなってしまう。そんなのやだぁー。

「ほらヤッパリ」

とアノコは笑う。絶対に哲也だけには言わないで！

「哲也に何も言わないで欲しい？」

「うん・・・っ」

「アタシが言うこと全部聞いてね？」

「分かった・・・」

なんだって聞いてやる。それでまだキミをスキでいられるならば。

第４話#キミをスキでいられるならば。（後書き）

第2部分で、泣いてしまうように。となってました。泣いてどうする！って感じですが、実はあれ、泣いてしまわぬように。なんです。ごめんなさいｍ（＿＿）ｍ

～～～～予告～～～～

奈々葉が麗菜に言ったコトは、恋してる人には耐えられないコトばかりで？！

第5話#我慢できないよ

ナナちゃんから言われたコトバは、
『1日中、てつを無視して』
というのだけだった。アタシは1日だけ?それだけ?と思っていた。
最初は。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆　　◇◆◇◆◇

無視って結構難しいかもしれない。好きな人と話せない。話しに行けない。でもそれが普通なのかもしれない。だって、哲也の彼女はナナちゃんだから・・・。

アタシじゃないから。邪魔されても大丈夫。たった1日。ほんの少し――・・・。

「じゃあ、今日貸そうとしてるCDアタシに貸して」

「だっだめ!!!」

だめだよ。これだけは・・・。約束をしたから・・・。

「じゃあ、ばらしていいの?」

「貸す・・・よ」

約束だけど、ごめんね。まだキミを好きでいさせて?だって、もしバレたら、キミを見れないから。キミを好きでいられなくなるから。

「ありがとー。てつに貸してもらったって言ってくる」

「それだけはやめて！」

「そんな約束してないでしょ？」

ナナちゃん・・・。もう前のナナちゃんなんかじゃない。まるで別の人みたい。

「あっ。てつこんな所にいたー」

「これオレ好きなんだ」

「このＣＤね、」

やめて！！！

「麗菜ちゃんが貸してくれたの」

もうヤダ。許せない。いくら・・・ナナちゃんでも。もうどう思われたっていい、“ヘンナヤツ”でいい、もう我慢できない。

「えっ？それってオレが今日貸してもらうはずの・・・・」

言われるくらいなら言ってやる。

「麗菜ちゃんて、てつを好きなんだって～」

このやろ～。

「あぁ、そうだよ。それが何？ナナちゃんなんかよりもずっと前から好きだった。ナナちゃんにおどされてた！好きになっちゃいけなかった？」

全部吐き出した。キミを好きでいられるなら、ヘンナヤツでもいいかな。

第6話：大好きだよ？

ヘンナヤツになってから早一週間。皆から最近、言われる。

『あんなに仲良かったじゃん』

『奈々葉と哲也ってできてたんだってなー』

あははっ・・・と笑うことしかできないアタシ。あれから・・・二人とは一回も話してない。二人も・・・話してないみたい。逆らわなければよかった？

ううん。それは違うよね？ナナちゃんに言われるよりよっぽどよかった。

ずっと三人でいたい

そう願ったのは自分だった。けど、壊したのも・・・・・自分だった。

“なんてバカなんだろう”

なんどもココロで言った。でも、同じ時間（トキ）は二度とこない。

「ねぇ、いいこと教えてあげようか？」

アタシの机に手を置き、ナナちゃんが言った。

「な・・・に・・・？」

「あのねぇ、アタシ達・・・別れたんだ」

「えっ！？」

ななんで？！

「麗菜ちゃんの為なんかじゃない。好きな子がいるんだって。麗菜っていう・・・早く行けば？」

ナナちゃん・・・涙出そうなのに我慢してる。

ゴメンネ。

「哲也、だぁ～いすきだ～」

哲也が一人で廊下で歩いてるトキに言った。

大好き

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3285a/

世界中の誰よりもキミを愛す

2010年10月19日13時55分発行